

西部地区集落営農組織オペレーター研修会を開催しました
～講師は現代農業で有名なあのサトちゃん！！～

平成31年2月16日に、自らの農業経営について考えることを目的として「西部地区集落営農組織オペレーター研修」が開催され、集落営農組織のオペレーターや役員を中心に、水稻生産者や関係機関の職員も含めて50名以上が参加しました。講師として、“現代農業”（農山漁村文化協会出版）に度々登場し、稲作や農業機械のメンテナンスのDVDも多数出版されている佐藤次幸氏（通称：サトちゃん）を福島県から招待し、農業生産の低コスト化に向けた取り組み等の紹介をしてもらいました。

研修内容は参加者同士および講師とのディスカッション形式で行われました。佐藤講師が事前に定めていたテーマ《農業生産の経費を1/3にするヒント～あなたは夢がありますか？～》に関して、前半は資産投資や世代の継承について、後半は農業機械の稼働方法や水稻栽培管理について、と多岐に渡る項目について議論されました。特に農業機械のメンテナンスに関してはオペレーターからの質問も多く、非常に活発な意見交換が行われました。最後に佐藤講師から参加者に向けて、「経費を1/3にするには規模を3倍にする（＝今の機械を3倍使う）ということ。夢を持ちながら、お金が残る農業にチャレンジしてほしい。」とのエールが送られ、閉会となりました。

参加者からは「少しの工夫でかなりの経費削減につながる事がわかった」、「農家に生まれたから農業で喰っていき、余暇を作って人生を楽しみたい」、「現代農業で常になじみなサトちゃんの話をごんごんに身近に聞けてよかった」という声が聞かれました。今後も集落営農・農地活用班では、オペレーターの機械作業における技術向上や知識習得に役立つ研修会の開催などの取組を実践していきます。

作成・発行 大分県西部振興局生産流通部 集落営農・農地活用班
監修 大分県集落営農推進西部支部

TEL : 0973-23-2217 FAX : 0973-23-3473



佐藤講師（右）とコーディネーター（左）



グループディスカッションの様子



水田内での機械の巡回方法を紹介する佐藤講師

集落営農かわら版

令和元年6月15日 VOL. 32
大分県西部振興局生産流通部
大分県集落営農推進西部支部

部長挨拶

初めまして。本年5月から大分県西部振興局生産流通部長を務めます安部と申します。西部振興局管内は初の仕事場となります。どうぞよろしくお願いいたします。元号が令和へと替わり、新しい天皇陛下がご即位されました。時代の節目に立ち会い、私たちも気持ちを新たに農政の推進に取り組んでまいります。

喫緊の課題は水田農業の構造改革、特に中山間地の多い当地区では後継者の確保や地域営農の今後の在り方を定めることが求められていると思います。県で推進する水田への園芸品目導入や農地集積、米の低コスト化技術の導入といった施策をうまく適合させ、地域や各組織にあった解決策を示していきたいと考えています。一方で、食味ランキングで「ひとめぼれ」が3年連続で特Aを獲得するという快挙がありました。マーケットが求める良食味米の産地づくりも重要です。

水田農業が大きな転換期を迎えるなか、皆様方の知恵と力をお借りしながら、農業が抱える課題の解決に向け取り組ましますので、今後ともよろしくお願いいたします。

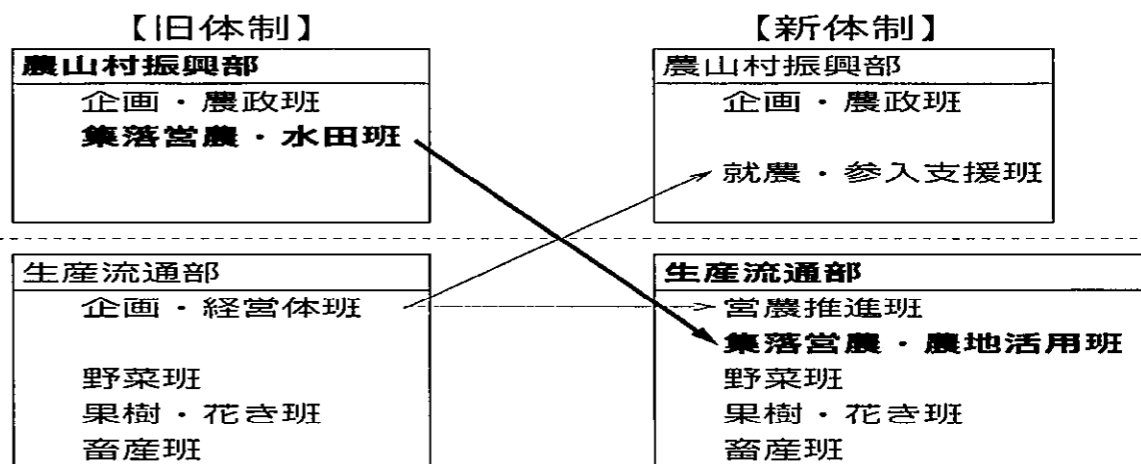


大分県西部振興局の組織改正について ～「集落営農」などの業務が生産流通部へ移行しました～

平成31年4月26日付けで大分県の組織改正が行われ、これまで農山村振興部が担当していた「集落営農」などの業務が生産流通部へ移行しました。水田農業の構造改革に向けて、集落営農の水田畑地化を強化するため、集落営農に関する業務が「生産流通部」に移管され、『集落営農・農地活用班』が新設されたところです。集落営農に関して大分県西部振興局に問い合わせる場合の連絡先が変わりましたのでご注意ください。

電話 : (0973) 23-2217

FAX : (0973) 23-3473



※農業関係のみ抜粋

各市町村担当は、日田市：中島・財前、玖珠町：菊屋、九重町：岸元となっています。

新しい集落営農組織のご紹介

合同会社 いろどり（平成31年3月13日設立登記 代表社員 後藤住吉 3名）

玖珠町浦河内地区の草ノ入江集落には、特定農作業受委託契約により水稻や大豆経営を行う任意組織「笑顔満点！草ノ入江営農組合」があり、年々農地の受託面積が増えています。こうした中、玖珠町で特定農作業受委託契約が見直され正式な農地貸借契約が必要になってきたこと、個人での農地貸借契約は難しいことから、農地貸借契約ができる法人「合同会社いろどり」を立ち上げました。これに併せ、草ノ入江集落の「人・農地プラン」の見直しを行い、法人も含めた担い手への集積を進めていくこととしました。特に「合同会社いろどり」には、中間管理機構等を通じて5haほどの農地が集まる見込みです。これらの農地を営農組合と連携して、水稻や大豆、枝豆生産を効率的に行い、地域の所得向上を図っていく計画です。さらに新規品目として、にんにく、サツマイモ、サトイモの導入を進めていく予定です。



地域の主力商品「エダマメ」
今年も頑張っています！

シリーズ～新たな取り組みへのチャレンジ～

新たな園芸品目の導入にチャレンジしています！ ～杉河内営農組合の活動紹介～

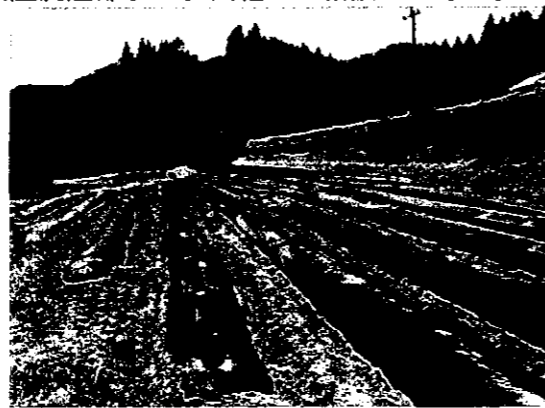
天瀬町の杉河内営農組合では、昨年度からにんにくの試験栽培に取り組んでいます。これまで営農組合の役員に加え、地区内の女性も一緒になって中間管理を行ってきました。順調に生育しており、収穫は5月末から6月上旬を予定しています。さらに今年度からは高糖度かんしょ「甘太くん」の試験栽培にも取り組むことになりました。定植前に栽培に関する勉強会を行ったり（13名参加）、定植用の道具を竹で作成したりしました。

今後は試験栽培の結果を受け、次年度の計画を立てていく予定です。

新たな園芸品目の導入に興味がある方は、西部振興局生産流通部までお気軽にご相談ください。



収穫間近のにんにくと平野組合長



かんしょ用マルチ張り後の様子

米の食味コンクールを高付加価値化につなげよう！ ～玖珠九重集落営農組織連絡協議会の活動紹介～

玖珠九重地域の集落営農28組織で構成された「玖珠九重集落営農組織連絡協議会（以下「連絡協」とします）」では「うまい米づくり」を活動方針の大きな柱のひとつとして取組を行っています。中でも今回で3回目の開催となる「食味コンクール」は代表的な行事です。従来は会員組織間での研鑽を主眼に置き優良組織の表彰を行うことが主な内容でしたが、その先につながる取組にしようとの議論を経て、今回は地域のうまい米や連絡協の取組をPRする活動を盛り込みました。

PR活動は、玖珠町の冬の名物行事「空からサンタがやってきたフェスティバル」会場にお邪魔し、「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」、「ヒノヒカリ」の食べ比べ・人気投票の形で行われました。参加いただいた方からは、「お米がおいしい」、「（ある品種に対して）これはいつも食べてるお米だ！」といった声が聞かれました。

全国的には生産調整廃止により米の市況は先行きに不透明感が漂っていますが、玖珠九重地域では主力品種の「ひとめぼれ」が日本穀物検定協会主催の食味ランキングで3年連続で最高ランクの”特A”を獲得し、販路も拡大傾向にあるなど、地域の主力産品となっています。今後も米の高付加価値化とそれによる集落営農組織の経営安定を実現できるよう、連絡協では会員組織の技術研鑽を図るとともに、産地全体の底上げや知名度向上につながる取組を実施していきます。

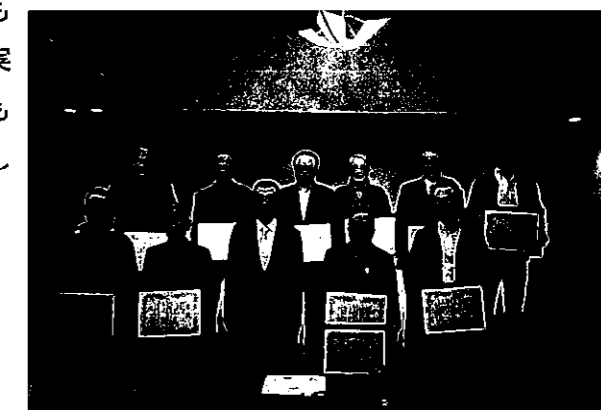
～第3回食味コンクールの各部門最優秀賞～

コシヒカリ部門 農事組合法人 小田アグリファーム

ひとめぼれ部門 農事組合法人 田の口

ヒノヒカリ部門 農事組合法人 実業営農組合

その他品種部門 農事組合法人 実業営農組合



第3回食味コンクール表彰式

水田の溝切り作業を行いませんか？～中干し前の一作業～

水田の溝切りを行うことで、水管理が容易となり、次のような効果が期待できます。

- ◆中干しで無効分げつを抑えて登熟を良好に。
- ◆十分な間断灌水で、後半の穂実を向上。
- ◆落水適期まで灌水。品質、収量を高める。
- ◆落水を速やかにし、地表の乾きを良く、コンバインの収穫作業をラクに。

中干しで落水しても、田面に凸凹があると窪んだところは水が溜まることで根が傷みやすくなり、後半の生育に悪影響を及ぼします。溝切りをすると用水の少ない場所でも均一かつスムーズに入排水ができ、遅くまで入水しておけるので登熟も向上します。ブロックや舟形の角材を引っ張る方法でもよいですが、動力溝切り機なら能率的に作業を行えます。昨年からは乗用溝切り機の無料貸し出しを大分県農業共済組合中西部支所が行っているため活用してみませんか？



担当：収穫共済課 連絡先：0973-72-3409（※水稻共済または収入保険の加入者に限りません）。